

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

## 「妊産婦のギャンブル依存症の改善」事業

### ギャンブル依存の妊産婦を支援するために 実態調査と助産師のスキル取得講座を実施

助産師の高齢化で、年々助産院が減少している。2025年に「別科助産専攻」を開設した「東京純心大学」では、こうした現状に危機感を持ち、地域貢献できる助産院を増やすべくリカレント（学び直し）講座の取り組みを進めている。その一環として、ギャンブル依存の妊産婦を支援するための基盤づくりに取り組んだ。

#### インターネットによるアンケート実施と リカレント講座での支援スキルの習得

妊娠中に足繁くパチンコ店に通いつめる女性がいる。あるいは乳幼児を自家用車に置き去りにしたまま、パチンコ店に入店し、遊興している母親がいるという事実がある。もしかすると、こうした妊産婦の何人かはギャンブル依存の可能性があるのではないかと。もしそうだとすると、妊産婦と接する機会のある助産師が、そのような女性の回復や立ち直りを支援することができるのではないかと。そうした思いのもと、東京純心大学の別科助産専攻ではギャンブル依存の妊産婦に関する実態調査と、助産師として支援するためのスキルを学ぶリカレント講座を実施した。

まず、妊産婦及び妊娠経験者500名を対象に、インター

ネットアンケートによる実態調査を行った。また、「NPO 法人 全国ギャンブル依存症家族の会山梨」が主催するセミナーに参加したほか、「認定NPO 法人 ワンダーポート」を訪問し、ギャンブル依存の妊産婦に対し、助産師としてどう支援すべきか、情報収集や意見交換を行った。さらにリカレント講座では、合計10回の講座のうち、2回をギャンブル依存について学ぶための時間とした（「ギャンブル依存症問題と助産師ができること」）。POSCの助成を受けることで、アンケートを実施し、その結果をリカレント講座で活用できたことはもちろん、ギャンブル依存当事者やその家族、支援団体関係者と意見交換することができたことで、今後の研究および支援活動の基盤づくりにつながった。



「NPO 法人 全国ギャンブル依存症家族の会山梨」が主催するセミナーに参加



リカレント講座の開講を告知するチラシ

助成団体: 学校法人 東京純心女子学園 東京純心大学

<https://www.t-junshin.ac.jp/univ/>



#### POSCからの助成を糧に、引き続き教育研究活動に邁進していきます

ギャンブル依存に対する支援は、助産師にもできることを改めて学びました。支援団体やリカレント講座受講者とのつながりを持つことができ、次年度以降もリカレント講座を開催すること、ギャンブル依存の妊産婦に対する支援策も継続することを決定しています。

学校法人 東京純心女子学園 東京純心大学  
別科助産専攻別科長 間中 伴子さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

## 「パチンコ・パチスロ依存は『病気』ではなく『健康問題』であることを周知する」事業 依存問題を健康問題として捉える考え方を伝え、 健康増進のためのランニングイベントを開催

我が国初のギャンブル依存回復（入所）施設として、2000年に設立された「ワンデーポート」では、関係団体などとも交流を続けながら、依存の問題を持った人や家族への相談支援、セミナーによる普及啓発などを通じて、個々の利用者の課題に寄り添い、常に新しい視点での支援活動を行っている。

### ランニングイベント「多摩川ゆるラン」とギャンブル依存を考えるセミナーを開催

「ギャンブル等依存」の対策として、我が国では国の定める基本計画の下、行政や医療機関が主導する形で医療モデルに偏った相談支援事業が行われている。しかし、国際疾病分類である「ICD-11」では、ギャンブルへのめり込みをギャンブリング障害と危険なギャンブリングに分類し、後者については健康問題としている。健康問題であれば、自己解決を主とした啓発やサポートが必要なはずだが、我が国の対策では本来は効果的である運動による生活改善が軽視されている。

ワンデーポートでは依存問題を健康問題であると捉え、その対策として、東京都狛江市および調布市の多摩川遊

歩道をランニングするイベント「多摩川ゆるラン」を開催した（2025年6月・9月・10月・11月・12月、2026年1月・2月・3月の第3土曜）。計8回実施され、延べ80名が参加したが、当事者だけではなく、医療福祉関係者の参加もあり、次年度に向けた地域の希望などの有意義な話を聞くことができた。また、11月16日にはさいたま市で、「ギャンブル依存を多角的に考える」をテーマにしたセミナーを開催（参加者50名）し、依存問題の背景には若者に共通する課題があることを紹介した。これらのイベントにより、ギャンブルへのめり込みを予防し、自己解決を促すなどして依存問題を解決するには、身体的健康が大事だということを伝えることができたと考えている。これらの事業の成果や課題は、会報やSNSなどを通じ発信した。



ランニングイベント「多摩川ゆるラン」



「ギャンブル依存を多角的に考える」をテーマにしたセミナーを開催

助成団体:認定非営利活動法人 ワンデーポート

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>



### 依存問題対策として健康増進や生活改善が有効であることを伝えたい

依存問題の解決に関して、国の画一的な対策とは一線を画した対策を進めるため、私たちは公的支援を受けずに活動しています。先駆的な取り組みであるがゆえ、理解されにくいところもありますが、今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

認定非営利活動法人 ワンデーポート  
施設長 中村 努さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

## 「罪を犯した人たちの自立支援・再犯防止」事業

### 犯罪や依存問題でつまずいた人の自立を支援する 協議会が全国7ブロックで勉強会・研修会を開催

非行や犯罪を引き起こしたことにより家族や地域社会から排除され、住まいや仕事を失った人たちに寄り添い、宿所を提供し、就労支援などのサポートをしながら自立更生を促す活動を行っている「自立準備ホーム」。その全国組織である「日本自立準備ホーム協議会」が、勉強会・研修会を開催した。

### 犯罪や依存問題からの立ち直りを目指す人々を支えるための知識やスキルを学ぶ

法務省の出先機関である都道府県の保護観察所に自立準備ホーム（以下、ホーム）として登録されている事業者は、全国に560団体ある（2024年4月現在）。ホームでは非行や犯罪を犯したことで住まいを得られない人たちに宿所を提供しながら、就労のサポートなどを行っているが、ホームに入所する人たちのなかには、精神障がい者や薬物、ギャンブル、アルコールなどの依存症者も多くいる。このような困難を抱えた人たちに適切な支援が求められているが、その対応策を学ぶための勉強会や研修会などを個々のホームで行うことは難しい状況にある。そのためホームの全国組織である日本自立準備ホーム協議会では、POSCの助

成を活用し、全国を7ブロックに分けて勉強会・研修会を実施した。

7回の開催で、累計167団体、270名の参加者があった。各ブロックの勉強会・研修会では、ホーム職員のニーズに沿った内容になるよう努めた。ホーム従事者の参考となる事例報告を始め、基調報告として大学教員、精神科医などから「障害・高齢などによる特別なニーズのある犯罪行為者への対応」「依存症の利用者と医療の連携」などの講演の後、参加者が小グループに分かれて「ホームを運営するうえでの課題や解決方法」などについて、意見交換を行った。参加者からは「率直に意見交換できて良かった」「依存症者の対応の参考になった」「毎年、開催して欲しい」といった声が多く寄せられた。



全国を7ブロックに分けて勉強会・研修会を実施



専門家の講演を行い依存症者の対応を学んだ

助成団体:一般社団法人 日本自立準備ホーム協議会

<https://nichijyunkyo.com/>



### 自立準備ホームの認知度とスキルを上げるための努力をしています

POSCからの助成金を受けて3年目になります。私どもの協議会の事業にご理解を賜り、深く感謝申し上げます。引き続きご支援をいただければ幸いです。地域社会での理解を得られるよう、あらゆる機会をとらえて活動の意義を訴えていきたいと考えております。

一般社団法人 日本自立準備ホーム協議会  
常務理事（事務局長） 長谷川 正光さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

「養成研修及び自殺防止啓発活動」事業

ボランティア電話相談員の養成やスキルの向上、  
傾聴講座を通しての自殺防止活動などに取り組む

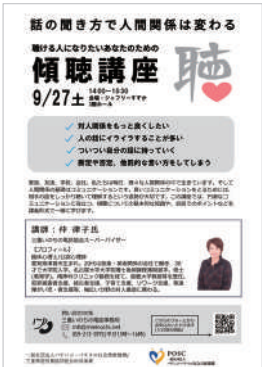
「いのちの電話」は、電話を通して自殺などの危機を訴える人たちの良き相談相手になっていこうとする市民活動である。2001年に全国で50番目の「いのちの電話協会」として発足した「三重いのちの電話」では、一人でも自殺者が少なくなることを願って、日々、相談員が心を込めて傾聴活動を行っている。

ボランティア電話相談員の人員確保と  
現相談員のスキルアップを図る研修

いのちの電話は自殺防止を第一の使命として活動をしているが、その要となるボランティア電話相談員数は全国的にも減少傾向である。「三重いのちの電話」では、少しでもボランティア電話相談員を増やし、体制を充実していくための努力を重ねている。その一環として、POSCと三重県遊技業協同組合の助成を受け、ボランティア電話相談員の養成とスキルアップ研修、さらに三重県民への自殺予防啓発に取り組むことにした。

まず、ボランティア電話相談員の人員確保として、第15期生ボランティア電話相談員養成講座を開講した（第2課程13回、実習3ヵ月）。受講者10名中、9名が認定され

た。その養成講座の一つとして、ギャンブル依存問題等をテーマとする講座も実施した。また、ボランティア電話相談員のスキルアップを図るため、グループ研修、個人スーパービジョン、合同研修などを実施した。初めての試みとして愛知・岐阜・三重の3センターによる合同宿泊研修も行った。参加した電話相談員からは、各センターそれぞれの活動の仕方を話し合え、充実した研修だったという声が多く寄せられた。合同研修の事例検討会では、ギャンブル依存問題等についても話し合った。さらに、自殺防止の啓発活動として、三重県民を対象に「話の聞き方で人間関係は変わる」をテーマとする傾聴講座を3回（鈴鹿市、津市、伊勢市）開催し、計237名（会場154名、Zoom83名）の参加者があった。



傾聴講座のイベントを告知するチラシ



ボランティア電話相談員養成講座を開講

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業・研究への支援

「女性の依存症者の居場所作りと地域連携フォーラムの開催」事業

依存問題への関心と理解を醸成するためのイベントと  
女性依存症者のためのリハビリホームの環境を整備

各種の依存症者、その家族、関係者などに対して回復や社会復帰を支援する事業を行うとともに、一般への啓発事業なども行う依存症リハビリ施設の「神戸ダルクヴィレッジ」では、依存問題へ関心を持ってもらうためのイベント開催や、依存問題を抱える女性を支援するためのリハビリホームの整備に取り組んだ。

依存症者への偏見を低減させたり、  
回復に取り組む居場所作りを推進する

「神戸ダルクヴィレッジ」では、依存症者が社会復帰していくための障壁を取り除いていくことを活動の根底に据えて、様々な事業に取り組んでいる。その一つがPOSCの助成を受けて2024年度から開催している「リカバリーデイ フェスティバル in 神戸」であり、その2回目が2026年3月21日に神戸市の東遊園地で開催された。2024年度は土砂降りの大雨に見舞われて参加者も少なかったが、今回は天気にも恵まれ、関係者20名のほか、約150名の参加者があった。依存症は誰にでも起こり得る問題であるとともに、依存症になるプロセスを知ることですべての予防と回復の大切さを伝えることを目的に取り組んだが、依存症に対する

一般の理解という点では、まだまだ偏見が大きな障壁として存在することを実感した。その一方、子どもを連れたボランティアの方々や回復者がサポートに来てくれ、公園で遊ぶ地域の子どもの対応をしている姿に、「本当に回復してくれてよかった」と、感謝の気持ちを感じた。今回はプライベートで参加した神戸市議や行政の方々が多かったので、次回以降の活動にその関係を活かしていこうと考えている。

また、女性の依存症者が安心して心地よく過ごすための居場所を作る事業として、リハビリホームのリフォームを実施した。実際の作業では、作業療法的な意味合いも含め、専門的な知識がある男性依存症者のメンバーを中心に、毎月1～2回、延べ約40名が力を合わせて取り組んだ。



「リカバリーデイ フェスティバル in 神戸」の開催を告知するチラシ



依存問題について理解してもらうため予防と回復の大切さを伝えた

助成団体:認定特定非営利活動法人 三重いのちの電話協会

<http://www.mieinochi.net>



ボランティア電話相談員の確保と財源の確保に助成が大いに役立ちました

POSCからの助成は、当法人の安定的な運営管理の面から大変助かりました。近年、複雑で価値観の多様化した社会や困難な家庭状況等を反映して、深刻な電話も増えてきており、なかにはギャンブル依存に関する相談もありますので、しっかりと対応していきます。

認定特定非営利活動法人 三重いのちの電話協会  
事務局長 古庄 憲之さん

助成団体:一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

<http://www.kobedarc.org/>



社会で依存症者を支える時代が来るように活動を継続していきます

これまで神戸ダルクの活動の発展と取り組みの大きな支えとなっただき、ありがとうございます。依存症で苦しむ人は心に傷を抱えている人がほとんどで、その点をご理解いただき、回復へ導く活動を支援していただいていることに言葉で言い尽くせないほど感謝しております。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ  
代表理事 梅田 靖規さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

## 「高知・女性支援交流と学び」事業

### 依存問題を抱えた地方の女性たちをつなぎ、相互に学び合い、支え合う場を創出する

「高知ダルク」では、薬物依存症者などに対して、断薬支援、住居・食事の提供、日常生活相談などの支援活動を行っている。2017年からは女性に特化した事業を展開しているが、このたび依存問題を抱える地方やへき地の女性たちに焦点を絞り、相互交流や自己啓発の場を設けるための活動に取り組んだ。

#### 施設や地域の枠を超えた交流で回復へのモチベーション向上を図る

新型コロナ禍以降、地方やへき地では人とのつながりが希薄化し、孤立の問題がより深刻化している。特に「高知ダルク」に入所・通所する女性たちは、支援資源の少なさや地理的制約により、閉ざされた環境の中で回復を目指すしなければならず、他地域の当事者や多様な回復のあり方に触れる機会が乏しいという課題があった。こうした状況を踏まえ、「高知ダルク」ではPOSCの助成を活用し、施設や地域の枠を超えて交流の輪を広げ、回復へのモチベーション向上に役立つ様々な活動に取り組むことにした。

2025年6月には、沖縄の「むら ワーカーズホーム」が主催するイベントに、高知ダルクが運営する就労継続支援

B型作業所「月と太陽と星たち」として出店した。8月には「群馬ダルク」より講師を招き、ワークショップイベントを開催した。さらに2026年2月には、日本各地で女性の依存回復に携わる7名の方を講師として招き、29周年「高知ダルクフォーラム」を開催した。参加した女性たちの表情や言葉には明確な変化が見られ、交流の場で他地域の当事者が自らの回復の経験を語る姿を見て、「自分のままで回復してもいいのだと初めて思えた」「将来のことを考えてみたいと思った」「一人じゃないと思えた」「他施設の仲間たちの回復の姿を見て希望を感じた」と話す参加者がいたことが強く印象に残った。また、若手スタッフが企画・運営に主体的に関わることで、支援者としてのスキルアップや視野の拡大にもつながった。



沖縄の「むら ワーカーズホーム」が主催するイベントに出店



29周年「高知ダルクフォーラム」を開催

助成団体:特定非営利活動法人 高知ダルク

<https://www.int-kochi.com/>



#### 当事者の回復と組織の将来を同時に支える重要な後押しとなりました

本助成があったからこそ、地方・へき地に暮らす依存問題を抱えた女性たちが地域を超えて出会い、語り合い、互いの回復を支え合う場を実現することができました。今回生まれたつながりを一過性のものにせず、より多くの女性に届く仕組みを作っていく必要性を改めて感じています。

特定非営利活動法人 高知ダルク  
理事長 宮本 容子さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

## 「電話相談活動・相談員養成・自死遺族支援」事業

### 誰かに話を聞いてもらうことで自死者を出さない社会を実現するために電話相談員の養成や研修に力を注ぐ

自殺（自死）者のない社会を実現するためには、孤立や孤独状態に置かれている人がいない社会づくりが必要である。1998年の開局以来、27年間にわたって、24時間年中無休で電話相談活動に取り組んでいる「佐賀いのちの電話」では、活動を支える要となる相談員の養成に向けて日々、努力を傾けている。

#### 相談員の高齢化や減少という課題を解決するために養成講座を継続する

「佐賀いのちの電話」では、自殺（自死）される方が一人でも少なくなることを願いながら、現在、約120名の相談員が電話相談の受話器を取り、悩みや苦しみを傾聴し、寄り添い、ともに社会人として生きることができるよう活動が続いている。しかしながら、活動を担う相談員の高齢化が進み、新しく相談員になる方も年々、減少しているのが現状である。その課題を解決するため、団体では相談員の養成を継続的に取り組んでいる。

2025年度の相談員養成事業では、まず40名の受講生が第1課程としてカウンセリング公開講座を受講（5月～7月、11講座）。そのなかの7名が、第2課程を受講（9月～3月、

26講座）した。2026年4月からは第3課程に進み、新人として実際に受話器を取りながら1年間指導を受け、さらに3年目に入ると相談員としての認定を受けることになっている。それに加え、団体では現役の相談員のスキルアップのための継続研修を実施。月1回の班別研修、年1回の公認心理士や精神科医師からの指導を受けている。さらに、自死遺族の方と直接面談して心の悩みを傾聴する支援事業「わかち合いハートの海」も実施（毎月第4土曜）している。これらの事業にPOSCと佐賀県パチンコ・パチスロ店協同組合からの助成を活用したが、カウンセリング公開講座を受講した人からは、「相談員になるか、ならないは別として、これからの生活にも役立つ講座だった」と感謝の言葉が伝えられた。



減少傾向にある相談員を養成する講座



現役の相談員のスキルアップのための継続研修を実施

助成団体:社会福祉法人 佐賀いのちの電話

<https://saga-lifeline.org>



#### 県や市の行政からも佐賀いのちの電話の存在を評価されています

財政的に困窮しているなかで、POSCと佐賀県パチンコ・パチスロ店協同組合様から助成を受けることで、新人相談員の育成、現役相談員の継続研修、自死遺族支援など、2025年度の事業を実施することができました。ひとえに感謝するのみです。まことにありがとうございました。

社会福祉法人 佐賀いのちの電話  
理事長 松永 啓介さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

## 「依存問題に関わる方々と共に『回復に必要な居場所を作ろう』」事業

### 地域交流による社会参加や作業所での就労を通して 依存問題を抱える当事者の回復を支える居場所づくり

依存問題を抱える当事者とその家族への相談支援や回復支援を目的に、回復プログラムの提供、居場所づくり、地域への普及啓発活動などを行っている「ちゅーりっぷ会長崎ダルク」。近年では長崎の海を舞台に当事者の社会参加や就労支援にも取り組み、地域社会の中で回復を支える環境づくりを進めている。

#### 支援スタッフ研修や当事者の社会参加、 就労支援環境の整備などに取り組む

依存問題を抱える当事者の多くは、社会的孤立や就労機会の不足といった課題を抱えている。回復に取り組むためには、安心して通うことができる居場所や社会参加の機会が重要である。そうした観点から、「ちゅーりっぷ会長崎ダルク」ではPOSCの助成を活用し、支援スタッフの専門性向上、地域交流イベントの実施、就労支援環境の整備などを柱とする活動を実施した。

支援スタッフ研修では、2025年6月に沖縄県にあるパチンコ依存問題の相談支援機関「リカバリーサポート・ネットワーク」を訪問し、電話相談支援の実態や相談対応の留意点などについて学んだ。また、就労支援事業所の取り組みを

学ぶため、沖縄県のむら「ワーカーズホーム」が開催した「B型グルメフェス」を視察し、就労継続支援B型事業所の活動や地域イベントを通じた社会参加の実践を学んだ。併せて就労継続支援B型事業所の開設に伴い、事業拠点となる物件の改装工事を行うとともに、併設するグループホームの家具などの物品購入を行い、当事者が生活と就労を両立させながら回復を目指す環境整備を進めた。さらに、地域交流事業として、11月9日に長崎県小瀬戸港で「こども海釣りフェスティバル」を開催し、児童福祉事業所の子どもたちを招き、海釣り体験と食事会を実施した。39名の参加者があったが、その企画や運営、調理などを依存症の当事者が主体的に担うことで、社会参加や回復への意欲につながる貴重な機会となった。



リカバリーサポート・ネットワークを訪問したスタッフ



児童福祉事業所の子どもたちを招き実施した「こども海釣りフェスティバル」

助成団体:特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク

<http://nagasaki-darc.com>



#### 就労継続支援B型作業所の開設に伴う工事や整備にも助成を活用

今回の助成により、依存問題を抱える当事者の回復を支える環境づくりを進めることができました。地域交流活動や就労支援拠点の整備を実施できたことに深く感謝申し上げます。今後も地域と連携しながら「回復に必要な居場所づくり」に取り組んでいきたいと考えています。

特定非営利活動法人 ちゅーりっぷ会 長崎ダルク  
代表理事 中川 賀雅さん

パチンコ・パチスロ依存問題の予防と解決に取り組む事業への支援

## 「依存症者の再発を防ぐためのイベント開催」事業

### 依存症者、障がい者が地域社会とつながるための 「B型グルメフェス」を開催して盛り上がる

2013年から沖縄県で就労継続支援B型事業所を運営するむら「ワーカーズホーム」。コーヒーの木の栽培、コーヒー豆の販売、カフェなどを行っているが、開設当初からギャンブル、アルコール、薬物などの依存問題を持つ方が多く利用している。団体では2025年6月に2回目となるイベントを実施した。

#### 就労継続支援事業所や依存回復施設が 出店するイベントを開催して交流を図る

パチンコやスロットなどをはじめとする様々な依存問題を抱えた方々、あるいは障がいを持つ方々に、地域社会で必要とされ、役に立っているという感覚を持ってもらいたいという願いから、むら「ワーカーズホーム」ではPOSCと沖縄県パチンコ・スロット協同組合の助成を活用し、前年に引き続き、2回目となる「B型グルメフェス」と題するイベントを2025年6月27日に開催した。

会場となった北中城村の沖縄県営中城公園内のイベント広場には、県内外から就労継続支援B型事業所を中心に、A型事業所、障がい者支援や女性支援を行う団体などから30事業所が出店し、コーヒー、パン・菓子、食事・弁当、

小物・アクセサリなどを販売し、ワークショップを実施した。来場者は約500人以上と予想を大きく上回る人数で、各事業所を利用する方々や近隣の精神科病院を利用する障がい者の方々に多く来場していただき、買うほうも売るほうも安心してやり取りをしている姿が印象的だった。また、依存症の回復施設が運営する事業所も数店舗出店し、そこでは依存症の方が地域のB型事業所の利用者と交流している姿も見られた。参加者からは「このような大規模なイベントを企画していただけるのは本当にありがたい」（支援員）、「お客様と触れ合えて楽しかった」（事業所利用者）といった声が多く寄せられた。さらに12月5日～6日には、むら「ワーカーズホーム」が運営するカフェ店内で6周年イベントを実施した。



2回目の開催となった「B型グルメフェス」



県内外から30事業所が出店し500人以上が来場した

助成団体:一般社団法人 むら ワーカーズホーム

<https://www.muraokinawa.org>



#### 複数年にわたる助成のおかげで安定的に活動できていることに感謝

2025年度の助成に関しては、2024年度に引き続き、私たちの活動ではなく、「私たちが地域社会に貢献するには」という考えで活用させていただきました。おかげで多くの依存問題を持つ方々に楽しいひとときを提供できました。ありがとうございました。

一般社団法人 むら ワーカーズホーム  
代表理事 横山 順一さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「過疎地域における住民主導の子育て支援体制整備」事業

北海道の北見市留辺蘂町温根湯温泉地区で、安心して子育てできる環境整備に尽力する

NPO中間支援センターとして、多くの福祉NPO法人の設立認証や運営を支援してきた「北見NPOサポートセンター」。現在は非営利セクターの支援や協働事業などに取り組んでいるが、このたび地域住民が中心となって行う子育てワークショップや子ども食堂、防災フェスなどのイベントを開催した。

過疎地域でも安心して子育てができる環境と持続可能な町づくりを目指す

北海道の北見市留辺蘂(るべしべ)町において、福祉のまちづくり活動などに関与してきた「北見NPOサポートセンター」。そのなかで町内の温根湯温泉地区での保育園閉園、子ども会縮小など、子育て環境の悪化を知り、将来を見据えた子育て支援計画づくりの必要性を強く感じていたものの、厳しい財政状況にある行政の支援が期待しにくい、民間主導での対策に乗り出すことにした。

まず、地区の未来の子育て環境の姿をイメージするために「おんねゆ未来子育てプランづくり研修」と題するワークショップを子育て世代中心で開催し、実績豊富な講師の指導を受けて5回にわたる話し合いを行い、子育て環

境のありたい姿を共有した(延べ55名参加)。また、子どもや地元住民を対象に、キッチンカーで地元産品を活用して提供する子ども食堂を実施(3回、各回30食)。地元の方々からの食材の提供、地元高校からのレシピの提供などがあり、地域として一体感のある事業となった。さらに避難所体験と子ども主導で災害食を提供する「防災フェスタ」(30名参加)、子育て世代がおしゃべりで交流する「ママカフェ」(12名参加)、北見工業大学の留学生と子どもたちが交流する「国際交流クッキング」(31名参加)を開催した。これらの事業にPOSCと北海道遊技事業協同組合の助成が活用され、過疎地域であっても物的、人的資源を活用することで、様々な取り組みが可能であることを多くの方々に感じてもらうことができた。



キッチンカーで地元産品を活用して提供する子ども食堂を開催



子ども主導で災害食を提供した防災フェスタのチラシ

助成団体:特定非営利活動法人 北見NPOサポートセンター

<https://kitami-npo-support-center.com/>



子どもたちの笑い声は、地域の貴重な財産だと改めて感じる事業でした

2年連続で助成をいただき、不登校問題、過疎地の子育て環境問題に取り組むことができました。事業をきっかけに、実施地域では様々なアイデアが出され、活動が芽生え始めています。今後も過疎地域の子どもたちの健全育成の取り組みへのご支援を切にお願いいたします。

特定非営利活動法人 北見NPOサポートセンター  
理事長 谷井 貞夫さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

「英語無料塾を開始して2年目、成果を挙げたため継続資金」事業

生活困窮家庭の子どもたちが未来に希望を持ちながら生活を築いていくための下地作りとなる英語塾を運営

釧路市に隣接する北海道東部の白糠町で2010年に設立された「陽向ぼっこ」は、高齢者の居場所づくりや生きがいづくり、町の経済活性化、貧困世帯の支援活動などに取り組んでいる。さらに町の将来を担う子どもたちを対象にした無料の学習塾を開設し、現在では英語教育に重点を置いた活動を展開している。

町の将来を担う子どもたちのために無料の希望塾で英語教育に取り組む

「陽向ぼっこ」は、人口約6,800人の白糠町で、高齢者の居場所「憩いの館」、高齢者いきがい福祉カラオケ、おもちゃ図書館、子ども食堂・地域食堂、一人親家庭及び生活困窮家庭への弁当の無料宅配などの事業に取り組んでいる。過疎化が進むなかにあって子どもたちは町の宝であり、町の将来を担っていく大切な存在である。その子どもたちのために教育環境を整え、自由に学べる場所を提供することを目的に、団体では2020年4月に無料の「希望塾」をスタートさせた。当初は国語・算数・社会の3科目だったが、これからの時代は英語力が必要になると確信し、2年前から英語塾に切り替え、週2回の授業を行っている。

募集対象は小学3年生から6年生までの12名で、通ってくるのは生活に余裕がなく、有料の塾に通うことが困難な子どもが多い。

2025年度は4月に開塾し、通常授業のほか、7月に塾生との食事会、10月に遠足行事の親子イモ掘り会、12月にクリスマス会、2026年3月には修了お別れ会を実施した。こうした活動に、POSCと北海道遊技事業協同組合からの助成を活用した。11月に8名が英語検定に合格したが、合格者に対して塾で賞状を手渡したところ、親子で喜ぶ光景が見られた。また、町報にも合格者の写真入り記事が掲載され、塾生の家族からも大変喜ばれた。学校で同級生から英語の分からないところを聞かれ、頼りにされると、子どもたちが嬉しそうに話す姿が印象的だった。



無料で英語を学習できる「希望塾」



「希望塾」では食事会やクリスマス会などイベントも開催

助成団体:特定非営利活動法人 陽向ぼっこ

<https://www.hinatabokko-siranuka.com/>



おかげさまで無料塾(希望塾)の卒業生は6年間で50名を超えました

無料塾を開始してから2026年で7年目に入りました。2025年度に3回目の助成支援をいただき、関係者一同、心より感謝申し上げます。今後もこの活動を継続して行ってまいりたいと願っております。これからも子どもたちのために変わらぬご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人 陽向ぼっこ  
代表理事 儀同 一義さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「障がい児、闘病児の為に夏祭り」事業

一般のイベントに参加困難な子どもたちや家族が  
気がねなく楽しむことができる夏のイベントを開催

障がい児、闘病児、医療ケア児を育てる家族の支援に取り組んでいる、福島市の「みらいの光」。そうした子どもたちや家族が参加できるイベントが極めて限られるなか、団体では参加自由、すべて無料という夏祭りを開催した。会場に詰めかけた子どもたちや家族の顔には笑いが弾け、歓声があがった。

### ステージ、体験、フード、遊戯などの多彩な催しに子どもの笑顔が弾ける

子どもたちを対象にしたイベントは数多いが、障がいを持った子どもや医療的なケアが必要な子ども、あるいはその家族が参加できるイベントは数少ないのが現状である。そこで「みらいの光」では、廃校になった小学校の体育館を借りて、そうした子どもたちや家族が気がねなく参加できる夏祭りを2025年9月14日に開催した。このイベントは2023年から続くもので、昨年度で3回目の実施となった。当初は、資金面での不安から実施を見送る予定でいたが、昨年度同様、POSCと福島県遊技業協同組合連合会から助成を受けることができたため、開催の運びとなった。安心して参加いただけるよう、会場には車いす用スロー

プやオムツ交換所などを用意した。ステージイベントとして、お笑いライブ、フラダンスショー、マジックショー、体験コーナーとして、かき氷やバルーンアート作りなどを行ったほか、フードコーナーには焼きそば、揚げパン、フライドポテト、ポップコーン、唐揚げなどを用意した。また遊戯コーナーでは、輪投げ、射的、水ヨーヨー釣り、ストラックアウトなどを用意し、すべて無料で楽しんでもらった。当日は12時から15時までの開催だったが、子ども75名、大人84名の参加があった。参加した家族からは、「障がいを抱えていて、一般のイベントになかなか参加することができないが、このように気がねなく参加できるイベントを開催してもらえてありがたい」などの声をたくさんいただいた。



ステージイベントとして開催したマジックショー



参加自由、すべて無料という夏祭りに子どもの笑顔が弾けた

助成団体:一般社団法人 みらいの光

<https://miraino-hikari.com>



### 来場者から寄せられた笑顔や喜びの声が、今後の活動の励みに!

前例がない、枠にはまらないなどの理由から補助金などに縁のない当団体に対して、POSCや福島県遊技業協同組合連合会からの助成を頂戴でき、昨年に引き続き無事、夏祭りを開催することができました。参加して下さった皆様から喜びの声や笑顔をたくさんいただきました。

一般社団法人 みらいの光  
代表理事 加治 浩子さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「東京のこども食堂の食糧分配システム構築」事業

地域の小さな子ども食堂をネットワークすることで  
災害時や緊急時にも対応できる食支援モデルを目指す

すべての子どもが安らぎ、幸せになることを願い、2004年から東京都杉並区を拠点に活動が続けている「こどもプロジェクト」。災害などの非常時にも子ども食堂が役に立つと考え、子ども食堂をネットワークして食糧配布の仕組みを作る「こどもフードパークTOKYO」の構築に向けた取り組みに着手した。

### 子どもや家庭とつながる子ども食堂を緊急時の食糧分配の拠点にする試み

社会不安や物価高騰などで困窮する子育て家庭が増えてきている。特に成長期に栄養を必要とする子どもの食を、家庭だけではなく地域で支えたいという市民活動が子ども食堂である。杉並区や武蔵野市で子ども食堂を運営する「こどもプロジェクト」では、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大で対面式食堂ができなくなり、一時休止したり、弁当配布に切替えたりしていたが、学校休校で使用しなくなった食料や東京オリンピックの延期で販売できなくなったロゴ入りのお菓子など、行き場を失った食品がたくさん届き、弁当と一緒に配布したところ、大変喜ばれた。このような食糧配布を安定的に継続するにはフードバンクや分

配の仕組みが必要であり、しかもそれが災害などの緊急時にも役立つと考え、それぞれの地域でのネットワークづくりと食糧保管場所の確保を目指す取り組みに着手することにした。その活動に、POSCの助成を活用した。

子ども食堂に食糧を分配するための拠点となる倉庫の整備を行い、「こどもフードパークTOKYO」のホームページを開設。さらに子ども食堂への食糧配布のネットワークを広げるため、中型拠点のある2ヵ所で子ども食堂とパントリーを同時開催した(杉並区・リベルタこども食堂／毎月第4水曜、武蔵野市・リベルタこども食堂セカンド／毎月第3金曜)。また、農水省のサイトより各省庁備蓄食品の入れ替え時の食糧寄付を申し込み、子ども食堂へ分配した(計8回)。多くのひとり親家庭、他団体から感謝された。



子ども食堂の準備風景



子ども食堂で開催しているパントリー

助成団体:特定非営利活動法人 こどもプロジェクト

<https://child.or.jp>



### 助成により事業の基盤づくりとなる取り組みに着手することができました

動画の作成やXへの投稿など、団体として行う機会がなかったことをサポートしていただきながら実施できたので、とても感謝しています。今回の助成で事業についてのホームページの作成ができ、新たな気持ちでスタートするきっかけになりました。今後も、ご支援をお願いいたします。

特定非営利活動法人 こどもプロジェクト  
理事長 福田 恵美さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「奨学金給付」事業

### 経済的な理由で進学を断念せざるを得ない若者や返済に苦しむ若者を減らすために返済不要の奨学金

成績優秀で学ぶ意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で修学が困難な若者に対し、返済不要の奨学金給付を行い、我が国の人材育成の推進や福祉の増進に資することを目的とする「パチンコ・パチスロ奨学金」。給付生が社会で活躍することで、遊技業界の社会的地位の向上にもつながると期待されている。

#### パチンコ・パチスロ業界が設立した返済不要の独自の給付型奨学金制度

1970年代から続く学費の値上げや90年代後半以降の非正規雇用者の激増、さらには新型コロナ禍の影響などにより、昨今、貧困などの経済的な理由で進学や学業の継続が困難な学生が増えている。現在、日本の大学に通う学生の半数以上は奨学金を利用しており、その約3分の1は日本学生支援機構などの公的な奨学金の利用者とされているが、こうした奨学金の多くは「貸与型」と呼ばれるもので、将来的に返済しなければならない。その返済に苦しむ延納者や滞納者は年々増え続けるなか、最近の諸物価高騰もあり、経済的な苦境にある学生はさらに増えていると言われている。



パチンコ・パチスロ奨学金の給付生を募集するポスター



2025年度パチンコ・パチスロ奨学金の給付式

パチンコ・パチスロ業界では、早くからこうした奨学金の問題に着目していたが、2016年に社会福祉法人「さばうと21」の協力を得て「パチンコ・パチスロ奨学金（pp奨学金）」制度を設立し、返済を求めない給付型奨学金事業を開始した。その財源はPOSCからの助成、業界関係者の会費・寄付、遊技客からの寄付などだが、ホール数の減少などにより、それが減少の一途をたどっているのが実状である。そうした厳しい状況下でも、経済的な理由で修学が困難な学業優秀者に対し、月額3万～5万円の奨学金を年6回、継続して給付している。その際、学生にハガキで近況を報告してもらっているが、それをホームページなどで読んだ関係者からは、経済的に苦しい学生を支援することの意義を感じるという声が多く寄せられている。

助成団体:一般社団法人 パチンコ・パチスロ奨学金

<https://www.ppsgk.jp/>



#### 2025年度も給付生に対し、前年度並みの奨学金を渡すことができました

寄付金や会費収入が年々、減少傾向にある当奨学金にとって、POSCからの助成は非常に貴重なものになっています。一度、給付対象となった方への継続支援は責務だと考えております。今後も変わらずのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 パチンコ・パチスロ奨学金  
理事長 吹浦 忠正さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「バイクスクール」事業

### 小学生が自転車を安全に利用するスキルや知識を習得することで事故防止や交通ルールの意識を高める

栃木県宇都宮市を拠点とし、地域のサイクルスポーツの普及と振興を目的に活動する「宇都宮サイクルスポーツ推進委員会」。自転車競技の魅力を広く発信するためのイベントの企画や運営などに取り組んでいるが、このたび地域の小学生を対象に、自転車を安全に利用するための教室を実施した。

#### 交通ルールや安全な操作技術を学ぶ自転車安全スキルアップ講習会を開催

2026年4月1日に施行された道路交通法改正により、自転車の安全走行に関する話題に注目が集まっている。子どものうちから正しい交通ルールや自転車の安全な操作スキルを身に付けることは、自らの身を守るだけでなく、加害者になるリスクを減らし、交通事故の減少にもつながる。地域のサイクルスポーツの普及や振興に取り組む「宇都宮サイクルスポーツ推進委員会」では、POSCと栃木県遊技業協同組合の助成を活用し、小学生が自転車を安全に利用するスキルや知識を習得することで事故防止や交通ルールの遵守の意識を高めることを目的とする自転車安全スキルアップ講習会を開催した。



自転車安全スキルアップ講習会を開催



参加者の技量に合わせたマンツーマン指導が好評を得た

日本マウンテンバイク協会の専門講師を招き、2025年12月6日～7日の2日間にわたって開催した講習会には、小学生を中心にのべ50名が参加した。交通ルールや自転車の安全走行に関する基礎知識を学んだほか、正しいブレーキングや狭い道でのスムーズなハンドルテクニック、バランスの取り方など、日常生活で役立つ実践的な操作技術などについても学んだ。参加者一人ひとりの技量に合わせた丁寧なマンツーマン指導を重視した結果、参加した子どもたちからは、「カーブが曲がりやすくなった」「自転車に乗るのがもっと楽しくなった」などの声が寄せられた。また、保護者からは「丁寧な指導で安心した」「広報を見て初めて参加したが、来年もぜひ開催してほしい」といった継続を望む声が多数寄せられた。

助成団体:宇都宮サイクルスポーツ推進委員会

<https://utsunomiya-cyclocross.com/>



#### 自転車の安全技術は子どもたちの命を守るための「一生の財産」

今回の助成により、これまで課題であった広報活動を強化することができ、理想とする「専門家によるマンツーマン指導」の場を提供することができました。子どもたちの不安が自信に変わり、笑顔で会場を後にする姿を目の当たりにし、この事業の社会的意義を再確認しました。

宇都宮サイクルスポーツ推進委員会  
委員長 横堀 章男さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「困難な問題を抱える女性と子どものための一時保護施設の運営」事業

社会的・経済的に困難を抱える女性と同伴児童を支援し、次のステップに向けた準備を行える場を提供する

社会的・経済的困難を抱える女性は可視化されにくく、公的支援から取り残されやすい。DVや経済的搾取に苦しむ若年女性が相談先を持たず、ネットカフェなどを転々とするうちに被害に遭うケースも少なくない。「アマヤドリ」は困難女性支援法を踏まえ、従来の施設の枠を超えた支援に取り組んでいる。

### 4世帯受け入れ可能な短期的住居で様々な困難を抱える女性や児童を支援

新型コロナが流行し始めたころ、元養護教諭である「アマヤドリ」代表の元に卒業生をはじめとする若年女性からの深刻な相談が多く寄せられた。DVや経済的困窮、予期せぬ妊娠、精神疾患など、相談内容は多岐にわたっていた。日本では18歳までは児童福祉法に基づく支援の仕組みがあるが、それを過ぎると支援対象外となるケースが多い。彼女らをサポートしていくなかで、18歳以上の女性への支援が空白だったり、希薄だったりする現状を痛感したことで、2020年に「アマヤドリ」を設立し、彼女たちを支援する事業に着手した。

活動を続けるなかで、支援の対象を若年層だけでなく、

困難を抱える女性とその同伴児童に拡げ、2023年よりPOSCなどからの助成を活用し、短期的住居の運営を開始した。4世帯の受け入れが可能になっていて、2025年度の利用者数は17名、同伴児童数は11名だった。助成により、ボランティアスタッフへの謝金・交通費や非常通報装置などの防犯対策、ポータブル電源の整備などの防災対策など、困難を抱える女性が安心・安全に過ごせる環境を整えた。今後の生活について多くの不安を抱えて入所した利用者だが、退所時には「安心して過ごすことができた」などの声をいただいたほか、入所当初は戸惑いがちだった同伴児童も、遊びや畑での収穫作業などを通して、次第にのびのびと過ごすことができるようになった。



防犯対策を充実させ安心して過ごせるようになった住居



安心・安全に過ごせるようにスタッフが手厚くサポート

助成団体:公益社団法人 アマヤドリ

<https://www.amayadori-official.net/>



### 3年続けて助成していただき、本年も活動を充実させることができました

困難を抱える女性や同伴児童への支援は、社会全体で支えていくことが大切だと改めて実感しています。POSCのご支援により、利用者の方に安心して施設で過ごしていただくことができたうえ、行政・民間・ボランティアが連携した充実した支援体制を築くことができました。

公益社団法人 アマヤドリ  
代表理事 菊池 操さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「金沢ゆめ街道2025」事業

金沢市中心部で多彩なパフォーマンスが繰り上げられる夏の恒例イベントが子どもたちの部活動の発表の場に！

石川県の県都・金沢市の目抜き通りの1.5kmが歩行者天国や祭り空間と化す、夏の風物詩「金沢ゆめ街道」。YOSAKOIソーランのステージ演舞やマーチングバンドの演奏など多彩なパフォーマンスが繰り上げられるが、子どもたちが日ごろの部活動の成果を発表する場としても大いに期待されている。

### 部活動の成果を発表する場としても期待される夏の風物詩イベント

多彩な事業により都市中心部の活性化や賑わいの創出をめざす県民総参加のイベントとして始まった「金沢ゆめ街道」。現在の名称に変更されてから19回目となる2025年度の新金沢ゆめ街道は、8月9日～10日に開催された。市の目抜き通りである国道157号線の武蔵交差点～片町交差点間の約1.5kmが歩行者天国となり、YOSAKOIソーランのステージ演舞やマーチングバンド演奏をはじめ、チアダンス、バントワリング、新体操、太鼓などの多彩な路上パフォーマンスが繰り上げられたほか、大地震に見舞われた能登半島の復興を祈念するオープニングパレードや「おわら風の盆」の踊り、物産展なども実施された。なお、

パフォーマンスには総勢700人の参加者があった。

このイベントが果たす役割の一つとして期待されているのが、児童・生徒の部活動の発表の場や機会となることである。指導者の時間的制約などから、学校に通う子どもたちの部活動が縮小される傾向にあり、その成果を発表する場や機会も少なくなってきたのが現状である。そうしたなかで国内外から多くの観光客が訪れるイベントに参加してもらうことは、日本の教育文化の一環とも言える部活動を維持し、子どもたちの人間性を高めるうえでも有意義だと考えられる。今回参加した京都橘高校吹奏楽部の演奏・演舞の動画がSNSで発信され、大変な注目を浴びたうえ、地元の小学校、中学校、高校の吹奏楽部やYOSAKOIソーランなどの動画も話題となった。



多彩な路上パフォーマンスが繰り上げられた「金沢ゆめ街道」



児童・生徒の部活動の発表の場や機会にもなった

助成団体:金沢ゆめ街道実行委員会

[https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/event/detail\\_50394.html](https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp/event/detail_50394.html)



### 助成により、事業に関わるすべての方に幸せを届けることができました

子どもの育成事業には収益が期待できないことなどから、一般企業からの協賛には限界があります。POSCや石川県遊技業協同組合が子どもの育成事業に対して助成していることをイベントの来場者などに周知でき「いいことしていますよね」などの賛辞が寄せられました。

金沢ゆめ街道実行委員会  
委員長 中川 一成さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「ドリームキッチン」事業

### 子どもの貧困が格差につながらないように配慮しながら 誰でも参加できる食事の提供事業を実施する

子どもの貧困率の高さが問題となるなか、子どもたちに楽しい思い出を作り、自分たちの街を大切に思う気持ちを持ってもらいたいと、愛知県春日井市の松山校区の子どもたちを対象に様々なイベントや地域貢献活動を行う「松山子ども夢事業」が、子どもなら誰でも参加できるフードイベントを開催した。

#### 地域のすべての子どもたちを対象にした 孤食対策としてのフードイベントを開催

新型コロナ禍の2020年、地域の子どもたちが通う小学校の校長から、「学校給食しか食べられていない子どもがいて、長期の休みに入ると非常に心配」という声が出たことから、保護者の集まりである「松山子ども夢事業」の有志によってスタートしたのが、「ドリームキッチン」である。小学生の孤食や経済的に困窮する家庭の子どもの食生活が問題となっており、夏休み、冬休み、春休みなどの給食のない期間に地域の公共施設などを使って、子どもたちに食事を提供しようということで始められた事業だが、一般的に知られる「子ども食堂」という名称を用いなかったのは、そう名乗ることで、そこに集まる子どもたちは貧困

家庭の子どもとして見なされ、いじめなどの原因になりかねないという懸念があったからである。そのため、地域の子どもであれば誰でも集まりやすいドリームキッチンという名称で活動することにした。

2025年度は全25回実施し、毎回100～200名が参加して、延べ2,692名の児童が無料で食事の提供を受けた。物価高による食材費高騰のため、以前提供できていたレベルの食事を提供できにくくなりつつあったが、POSCの助成を活用することで、食材購入の課題を克服することができた。活動を続けるなかで子どもたちの間で口コミも広がり、誰でも参加しやすい雰囲気を作ることができ、冬には特別メニューを提供するなど、評判も上々であった。学校や地域からも高い評価を得ている。



全25回実施され、毎回100～200名が参加した「ドリームキッチン」



POSCの助成を受け食材購入の課題を克服できた

助成団体:松山子ども夢事業

<https://matsuyamacdb.wixsite.com/main>



#### 活動当初より地域の子どもたちは区別することなく受け入れてきました

このたびは当団体をご支援いただき、ありがとうございました。2025年度の助成金のおかげで、より多くの参加者に楽しい思い出をつくることができ、地域になくてはならない団体へと成長することができました。安定した活動をしていくためにも、今後ともよろしく願いいたします。

松山子ども夢事業  
代表 水谷 俊也さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「難聴障がい児の居場所デフアカデミー『共存プロジェクト』」事業

### ろう難聴児の居場所「デフアカデミー」に 聞こえる人を招いて「共存の場」を創出する

大阪市中央区でろう難聴児の放課後等デイサービス「デフアカデミー」などを運営し、考える力や人と関わる力を育むプロジェクト型学習を提供している「Silent Voice」。ろう難聴児への民間支援拠点としては稀有な存在であり、これまでに200名以上の児童・生徒が登録し、様々な活動を行っている。

#### ろう難聴児と聴者が隔てなく交わる 月に一度の共存イベントを実施する

ろう難聴児はコミュニケーションの壁から家族外の聞こえる人と関わる機会が少なく、同じろう難聴児同士で集まる傾向がある。その結果、聴者と関わっていく自信が育まれず、社会に出て働く際に、自身の障がい特性を説明したり、関係性を構築したりすることに慣れず、孤立して早期退職してしまうケースも少なくない。こうした背景を踏まえ、「Silent Voice」ではPOSCと大阪府遊技業協同組合の助成を活用し、子どもたちから聞こえる人（きょうだい、保護者、地域住民など）と関わり、仲間だと思える経験を積むことを目的とする事業を実施した。

デフアカデミーに月に一度「共存イベント」の場を設け、

ろう者と聴者のゲストを招き、スポーツ、夏祭り、大阪万博見学、職場体験などのイベントを計10回行った。特に9月には「にんげんキャンプ2025」と題した1泊2日のキャンプを開催したが、そこにはデフアカデミーや全国のオンライン支援の児童・生徒、そのきょうだいなど計44名（小中学生26名、スタッフ18名）が参加し、聞こえる子どもも聞こえない子どもも関係なく、共に過ごすイベントを初めて試みた。参加した子どもからは、「気がつくとも声を使わずに話していた」「無理やりでも行かせてくれてありがとう」といった感想が保護者に伝えられたほか、キャンプファイヤーのわずかな灯りの中でも顔と手が見えれば手話で通じ合えることに子どもたちが興奮し、ひたすら手話でおしゃべりを楽しむ姿が感動的だった。



ろう者と聴者が一緒に楽しむイベントを開催



手話で通じ合いながら楽しんだキャンプ

助成団体:認定特定非営利活動法人 Silent Voice

<https://silentvoice.org>



#### 今回の助成のおかげで活動規模と質を大幅に向上させることができました

キャンプを含め、年間を通じた共存プロジェクトに対し、多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。子どもたちが安心できる環境の中で挑戦し、大きな自信を得ることができました。ろう難聴児が自分らしく生かれる社会を目指して活動を続けてまいります。

認定特定非営利活動法人 Silent Voice  
代表理事 尾中 友哉さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「過疎地域の困難を抱えるこどもへの食事支援」事業

### 子どもや高齢者だけでなく地域で困難を抱えている 様々な人に食事の提供や交流の機会を創出する

島根県邑智郡美郷町で2004年に設立された「敬愛福祉会」では、「デイサービスやすらぎの里別府」の運営のほか、居宅介護支援事業所、学童保育、配食事業などを行っている。少子高齢化により人口減少が続く地域で、住民を繋ぐための交流の場として機能することを目指して日々の活動に取り組んでいる。

#### 配食と地域食堂の実施で見えてきた 地域住民の交流のニーズを満たす

地域の高齢者向けの配食事業を町からの委託で行っている「敬愛福祉会」では、併せて学童保育も行っていたため、保護者などの要望に応じて子ども食堂も開催してきた。配食作業や子ども食堂の運営などを通して、単に食事をとるだけでなく、人と話をしながら食事をすることで孤独感を和らげたい、楽しい雰囲気を味わいたいという交流に対するニーズがあることを知り、子どもたちだけでなく、経済的困窮や身体的困難などを抱える人たちも対象に加え、地域住民全体の生活の質を向上させることを目的とする事業に取り組むことにした。

町の配食事業の対象でない人からでも相談があれば

個別訪問し、食事の提供や相談などを行った。また、子ども食堂は「地域食堂」と名称を変え、地域住民が年齢などの属性を意識することなく利用できるようにした。配食事業は月～金曜までの平日毎日、地域食堂は児童の長期休暇中と毎週水曜日に実施した。なお、地域食堂は「デイサービスやすらぎの里別府」が稼働しているときに実施しているので、高齢者や児童が一緒になって食事ができるようになっている。過疎地域のため、利用者の数は決して多くはなかったが、配食で215回、食堂でのべ230人の利用があった。配食事業をすることで行政が把握していない、困難を抱えている人の情報を得ることができ、その情報を行政の担当者などに適切に提供することができた。また、地域食堂に関しては他の地域からの視察もあった。



高齢者や児童と一緒に食事ができる「地域食堂」



「地域食堂」は高齢者と子どもの交流の場となっている

助成団体:社会福祉法人 敬愛福祉会

<https://keiai-beppu.or.jp>



#### 助成のおかげで制度のはざまにある人たちの支援ができました

このような助成金は発達段階にある児童や、制度のはざままで人知れず困難を抱えている人たちの助けになるものだと思います。制度として確立されるまでには困難が多く、まだ社会的に認知されていないこともたくさんあります。それらが日の目を見るまでのあいだ、支援をよろしくお願いします。

社会福祉法人 敬愛福祉会  
理事長 横張 寿希さん

子どもの健全育成に取り組む事業への支援

## 「学生服おゆずり会」事業

### 使わなくなった学生服をリユースすることで 経済的に困窮する家庭の子どもたちを支援する

福岡市と北九州市を拠点に、使わなくなった学生服を回収し、クリーニングや補修などを施してから、一人親家庭や経済的に困窮する家庭へ譲渡する活動を行っている「制服バンク福岡」。例年11月から12月にかけて「学生服おゆずり会」を実施しており、行政をはじめ、地域での認知度も高まっている。

#### 経済的困難を抱える家庭の子どもたちに 安心して新生活を迎えられる環境を

子どもたちの入学時に必要となる制服の購入費用は家計への負担が大きく、特に生活保護世帯や一人親世帯などの経済的な困難を抱える家庭にとっては深刻な課題となっている。近年の物価上昇により、こうした家庭の経済状況はさらに厳しさを増しており、既存の行政支援や民間支援だけでは十分に対応しきれていない。なかでも課題とされているのが、児童扶養手当や生活保護世帯向けの入学支援金の支給時期が3月中旬であるにもかかわらず、一般的な入学準備は11月頃から始まり、学生服などは2月までに注文しなければ入学式に間に合わないことである。

こうした状況を踏まえ、「制服バンク福岡」では学生服

のリユースの必要性を強く認識し、使わなくなった学生服を回収し、クリーニングや補修などを施してから困窮する家庭へ譲渡する事業を開始した。2023年に北九州市で始めた学生服おゆずり会だが、2025年には福岡市でも開催した。なお、2025年11月の北九州市おゆずり会では110世帯へ364点、12月の福岡市おゆずり会では58世帯へ220点が譲渡されたほか、2026年3月には高校生向けのおゆずり会も開催し、14世帯へ23点を譲渡した。POSCの助成があったことで、11,000世帯の対象世帯にチラシを送付するなどの広報活動に力を注ぐことができたうえ、寄付された学生服をきちんとクリーニングして譲渡することが可能になり、多くの子どもたちに清潔で安心して着用できる学生服を届けることができた。



回収した制服を補修するスタッフ



学生服のリユース活動「学生服おゆずり会」

助成団体:特定非営利活動法人 制服バンク福岡

<https://seifuku-bank.com>



#### 助成により活動の幅が広がり、多くの子どもたちに笑顔届けられました

2年連続で助成をいただき、心より御礼申し上げます。困窮家庭に寄り添った活動ができたことは、ひとえにご支援のおかげであり、今後も子どもたちの笑顔のために尽力いたします。また、助成団体交流会を通じ、多くの団体と意見交換する機会を得ることができました。

特定非営利活動法人 制服バンク福岡  
代表 田中 博美さん

## 子どもの健全育成に取り組む事業への支援

### 「卒園生 壮行会」事業

#### 児童養護施設などの卒園生が金銭感覚やマナーを学び、自信を持って社会へ踏み出すための準備に取り組む

泥の中でも美しく咲く蓮の花のように、どんな環境でも力強く成長してほしいという願いから設立された「HASU」。児童養護施設などを毎月定期訪問し、子どもたちや職員との信頼関係を築くことを活動の基盤としている。このたび社会に羽ばたく卒園生を応援するための特別イベントを開催した。

#### 基本的なマナーリテラシーや社会生活上のマナーを学ぶ場を提供

「HASU」では毎月、児童養護施設を訪問し、職員の方々と連携しながら子どもたちに様々な体験や要望に応じたサポートを提供している。その関わりのなかで、卒園を目前に控えた子どもたちが、社会生活に必要な金銭管理の知識や基本的なマナーについて学ぶ機会が限られている現状を感じていた。そこで卒園前の節目の機会として、金銭教育に関する講座および社会的マナー講習を実施し、さらに実践の場として会食を体験する「卒園生 壮行会」を実施することにした。その活動に、POSCの助成を役立てた。

2026年2月8日に鹿児島大学内のレストランで行われたイベントには、参加予定17名のうち、14名（病欠2名、

早退1名）が参加した。給与管理や支出計画など社会生活に必要な基礎知識を学ぶマナー講座に続いて、基本的な社会的マナーを学び、その実践の場としてコース料理を楽しむ会食体験を実施した。さらに激励の言葉とともに、記念品の贈呈式を行った。当初は20名程度の参加を想定していたが、募集の段階では想像以上に調整が難しく、里親家庭にも声掛けの幅を広げて参加者を集めた。当日は参加した子どもたちだけでなく、同席した保護者の方々からも、「このような機会はなかなかない」「とても良い経験になった」と多くの感謝の言葉をいただいた。最初は緊張していた子どもたちも次第に笑顔になり、食事を楽しんでいる様子が印象的で、本事業の意義を改めて実感する機会となった。



社会生活に必要な基礎知識を学ぶ講座を開催



児童養護施設を卒園する子どもたちにとって有意義なイベントとなった

助成団体:特定非営利活動法人 HASU

[https://www.instagram.com/npo\\_hasu](https://www.instagram.com/npo_hasu)



#### 社会へ踏み出す子どもたちの自信や励みにつながる機会になりました

このたびは本事業に対し、温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今回の機会を通して、卒園を迎える子どもたちに社会に踏み出す前の貴重な経験を提供することができました。今後も形を工夫しながら、子どもたちを支える活動を継続していきたいと考えております。

特定非営利活動法人 HASU  
代表理事 道添 千佳子さん

## 特命助成

### 「ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援」事業

#### パチンコ依存問題に関する相談を通して、つながりの力で各々の生きる力を取り戻す

「リカバリーサポート・ネットワーク」では、遊技業界、民間、公的機関などと連携・協力しながら、パチンコなどの娯楽・遊技への過度ののめり込みに関する相談、啓発、予防などの事業を行っている。これらの事業を通じて、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に寄与することを目的に活動している。

#### パチンコ依存問題の電話相談をはじめ依存問題の啓発や予防などに取り組む

「リカバリーサポート・ネットワーク」は、パチンコ・パチスロの遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を行うことを目的に活動する非営利の相談機関である。様々な事業を行っているが、その主なものとしては、無料の電話相談（2025年4月～2026年2月実績：3575件、正規相談員6名、非正規相談員2名で対応）、広報・啓発（ニューズレター発行、啓発ポスター作成、自己診断アプリやe-ラーニングシステムの開発・提供など）、支援・連携活動（公的研究への協力、回復施設などとの連携・協力）、企画開催（セミナー・講演会など）、研修活動（相談技能などの研修）、資料作成・企画／出版などがある。

電話相談では日常的に不安を抱える人々が相談を寄せており、それに対して相談員が社会のつながりの力で生きる力を取り戻せるよう働きかけている。当初怒りをもって相談を寄せてきた方が、相談員の応対で穏やかになり、最後に感謝の言葉や「電話してよかった」と語ってくれる事例もある。このような直接的な感謝の言葉を聞けることは、相談員としてやりがいを感じる。なお、電話相談のデータは一年ごとにまとめて分析し、その結果を報告書にまとめ、PDF版をHPから無償で配布している。また、他の学術研究者とともにまとめたリカバリーサポート・ネットワークのデータ分析結果を学術誌などで報告している。こうした活動や報告書は、海外の研究者などからも高く評価されている。



ホール内に提示されているポスター

助成団体:認定特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク

<http://rsn-sakura.jp>



#### 民間機関だからこそできる迅速で柔軟な対応を心がけています

機械に人間が翻弄される時代が到来するなかで、「安心を求めている人々」は多くいます。社会病理などへの行政の対応は民主的プロセスから遅れがちであり、迅速で柔軟な対応は民間団体が担わざるを得ません。その財政を支える一助となるPOSCの助成は、社会的に価値が高いものです。

特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク  
代表理事 稲村 厚さん